

国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）の今後の展開

2015年1月22日

国際シンポジウム「デジタル文化資源の情報基盤を目指して
：Europeanaと国立国会図書館サーチ」

国立国会図書館 電子情報部 電子情報サービス課 小澤 弘太



国立国会図書館サーチとは

- 国立国会図書館が提供する情報探索システム。愛称は NDLサーチ
 - 各種のデータベース（約100）を統合的に検索可能（データを、画面とAPIで提供）
 - 図書館員や一般の市民、研究者や学生、システム開発者など、様々な利用者を想定
 - 平成22年8月 「開発版」として公開
平成24年1月 本格サービス開始
 - 公開以降、画面・APIいずれの利用数とも一貫して増加
- …目下の最重要課題は、連携先システムの拡張



改めて、NDLサーチにおける連携について

- 約100のデータベースの中身は以下の通り（代表的なもののみ）。

国立国会図書館

- NDL-OPAC
- 国立国会図書館デジタルコレクション
- WARP
- 総合目録ネットワーク（ゆにかねっと）
- レファレンス協同データベース
- リサーチ・ナビ

博物館・美術館・公文書館

- e国宝
- 国立美術館所蔵作品総合目録検索システム
- 国立公文書館デジタルアーカイブ

公共図書館・大学図書館デジタルアーカイブ

- 約40のデジタルアーカイブが検索可能

学術情報機関

- CiNii Articles
- CiNii Books
- JAIRO
- J-Stage
- 人間文化研究機構統合検索システム

他領域

- Japan Knowledge
- JPO 近刊情報センター
- 青空文庫
- Dibrary（韓国国立中央図書館）



連携実施計画策定の課題・背景

- **（課題・背景1）** 日本におけるメタデータ提供のプラットフォームとしての認知度が高まりつつあるいま、今後の連携拡張について目標と計画を示す必要がある。
- **（課題・背景2）** ナショナルアーカイブ（構想）におけるコンテンツ検索・提供機能を担う可能性を見据える必要がある。
- **（課題・背景3）** 図書館等の情報機関が保持するメタデータの集約及びAPIを通じた一般への提供により、政府が推進する「公共データの民間開放（オープンデータ）」の一翼を担う必要がある。



連携実施計画策定の目的

- 今後連携対象とする機関・システム
- 今後概ね5年間を目途に実現を目指す連携拡張の規模
- 効率的な連携拡張の方式

を明確化する。

計画は、外部に公表し、各機関の関係者と共有する。



連携方針・連携モデル

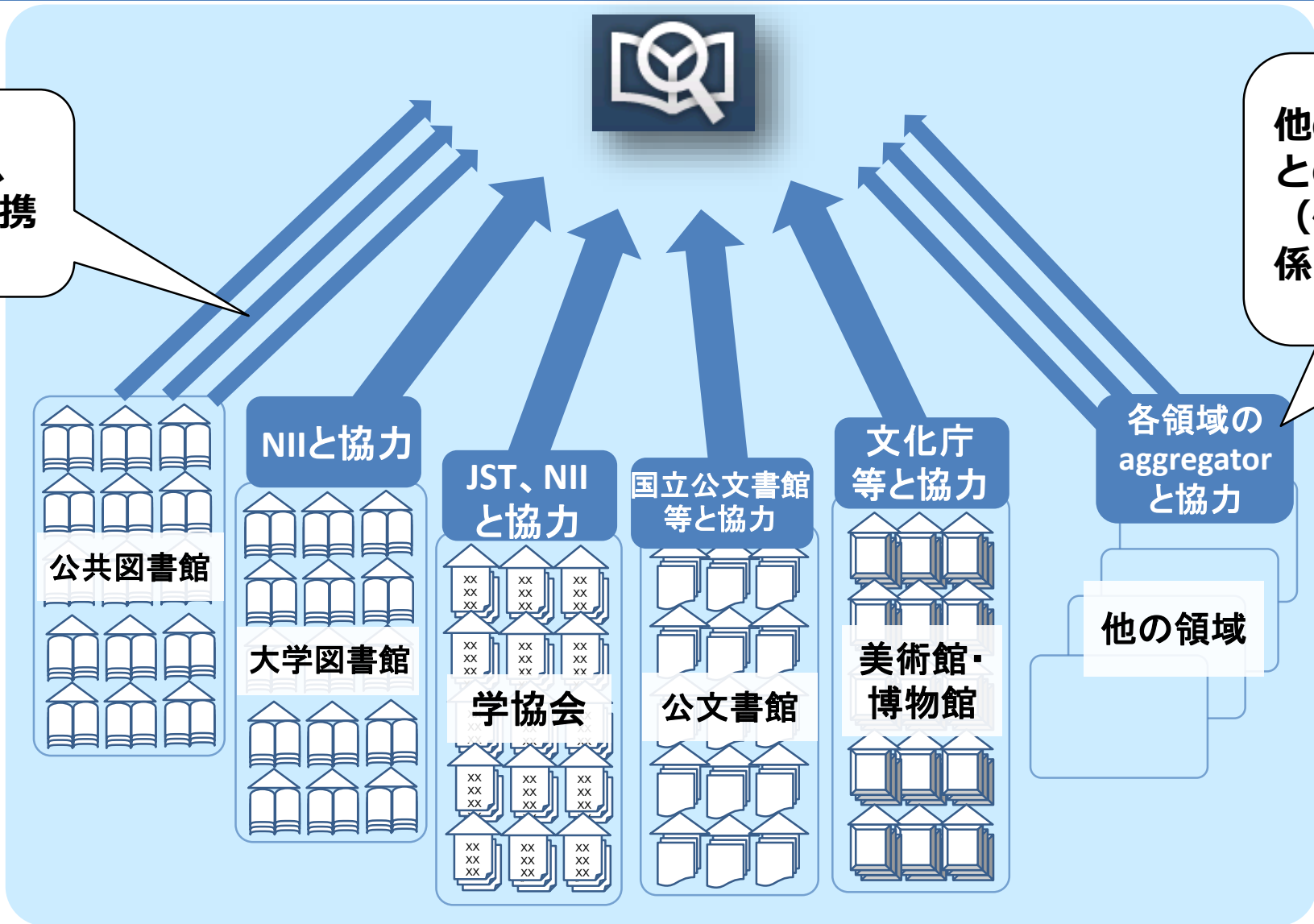
次の5項目を連携方針の柱とする。

- ① 日本の刊行物及び刊行物と同等の内容を有するコンテンツの網羅を志向。
- ② 公的機関、学術研究機関、図書館・文書館・博物館・美術館等の文化機関が作成し、インターネット上で提供している一次情報（コンテンツ）、二次情報（メタデータ）及び参考情報等を対象とする。
- ③ 一般利用者にとって有用性が高いコンテンツを持つシステムを優先。また、一次情報の入手までの障壁が低いシステムを重視。
- ④ APIを実装したシステムを優先。メタデータ授受に用いるフォーマットとして、国立国会図書館がインターネット上に存在する情報資源等の組織化・利用提供のために定めたメタデータ形式であるDC-NDL(RDF)を推奨。
- ⑤ 効率的に検索対象を拡大するために、個別のシステム（=data provider）との連携よりもそれらを集約した統合検索サービス（=aggregator）との連携を優先。



NDLサーチの統合検索サービス提供における連携イメージ

公共図書館は、
NDLが直接連携



他の領域は、領域ごとの aggregator (候補) との協力関係により連携拡張



NDLサーチの中期的連携拡張ロードマップ

領域		実施事項(平成27年度以降の5年間を目途)	5年間での達成事項
全般		連携対象システムへのAPI実装の促進	
公共図書館		データ提供館との連携方式を、順次OAI-PMHに切替え	データ提供館のうち25館程度について、OAI-PMHへの切替えを実現
大学図書館		デジタルアーカイブ	検索画面を持っており現時点で未連携のデジタルアーカイブのうち、15館程度との連携を実現
学術情報機関	デジタルアーカイブ	API実装済デジタルアーカイブとの連携	検索画面を持っており現時点で未連携のデジタルアーカイブのうち、10館程度との連携を実現
	機関リポジトリ	現在API未実装のデジタルアーカイブとの連携(規模が大きいもの)	
	総合目録	国立情報学研究所との協力により、効率的に連携を拡張	
	学協会	科学技術振興機構、国立情報学研究所との協力により、効率的に連携を拡張	
その他		省庁所管の各研究機関の動向を注視	
公文書館		国立公文書館等と協議 → 国立公文書館等との協力により、効率的に連携を拡張	
美術館・博物館		文化庁等と協議 → 文化庁等との協力により、効率的に連携を拡張	
その他		各領域の実態を調査 → 各機関と協議 → 順次連携を実現	



メタデータの流通において、NDLサーチが果たす役割

API利用者を始めとするNDLサーチ利用者



API



公共
図書館



大学
図書館



XXXXXXXXXX
学協会



公文書館



美術館
/博物館

領域ごとのaggregator、data provider



おわりに：今後のさらなる発展に向けて

NDLサーチは、API利用者を始めとする利用者の方々及びアグリゲーター、データプロバイダの方々と一緒に、今後ますます発展していきます。引き続きよろしくお願ひします。

*** 連携実施計画は、来年度なるべく早く公開する予定です。**

*** API関連の課題（機能・性能の改善、利活用の促進）にも取り組んでいきます。**



(参考情報)

- 検索対象データベース一覧 <http://iss.ndl.go.jp/information/target/>
- 連携を希望される機関の方へ <http://iss.ndl.go.jp/information/renkei/>
 - WebAPIによるシステム連携ガイドライン ver.1.2
http://iss.ndl.go.jp/information/wp-content/uploads/2014/06/WebAPIguideline_ver.1.2_20140526.pdf
 - 国立国会図書館サーチ連携マニュアル
http://iss.ndl.go.jp/information/wp-content/uploads/2014/06/renkeimanual_ver.1.0_20140601.pdf
- 外部提供インタフェース (API) <http://iss.ndl.go.jp/information/api/>
 - 国立国会図書館サーチ 外部提供インタフェース仕様書 (第1.12版)
http://iss.ndl.go.jp/information/wp-content/uploads/2014/12/ndlsearch_api_20141215_jp.pdf
- 「国立国会図書館サーチのメタデータ収録状況 Europeanaとの比較調査」 (情報管理, 2014, vol.57, no.9, P.651-663) <http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.57.651>
- 国立国会図書館サーチリンク集 <http://iss.ndl.go.jp/information/link/>